

Marubeni

サステナビリティ説明会

丸紅株式会社

2019年3月18日

テーマ

サステナビリティに対する取り組み

説明者

CFO（代表取締役 常務執行役員、サステナビリティ推進委員会委員長）
広報部 サステナビリティ推進室長

矢部 延弘
橋本 昌幸

スケジュール

- サステナビリティと丸紅（ビデオ上映） 10:00～10:05（5分程度）
- サステナビリティに対する取り組み（CFO） 10:05～10:30（25分程度）
サステナビリティに対する考え方
基盤マテリアリティ
環境・社会マテリアリティ
推進体制
- 質疑応答 10:30～11:00（30分程度）

和 新 正

社是「正・新・和」

「正」 公正にして明朗なること

「新」 進取積極的にして創意工夫を図ること

「和」 互いに人格を尊重し親和協力すること

経営理念

丸紅は、社是「正・新・和」の精神に則り、
公正明朗な企業活動を通じ、
経済・社会の発展、地球環境の保全に貢献する、
誇りある企業グループを目指します。

丸紅グループにとってのサステナビリティとは、

経営理念の実践

環境・社会課題の先取り
イノベーションによるソリューションを提供

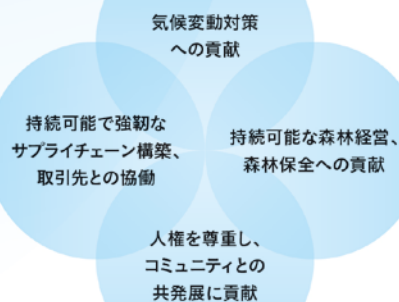
これらを通じて「今日より豊かな未来を創る」ことです。



環境・社会課題の
先取り



環境・社会マテリアリティ



Sustainable Development Goals (SDGs)

将来の世代により良い地球を残そうとする
政府・民間・市民社会にとっての
サステナビリティの重要な国際目標・課題



Global crossvalue platform

「タテの進化」 + 「ヨコの拡張」

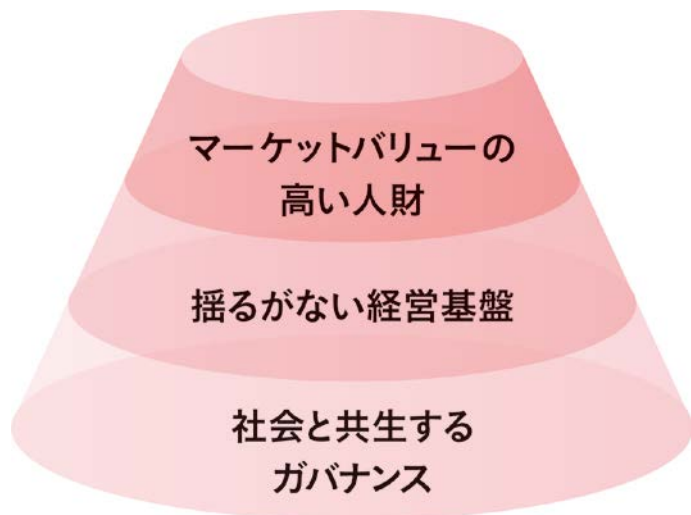
「タテの進化」 強い事業分野を更に強くする
「ヨコの拡張」 社内外の強みと強みを掛け合わせる

イノベーションによる ソリューション創出

『Global crossvalue platform』により、
ビジネスモデルの進化・刷新（イノベーション）を
追求しながら、環境・社会課題に対する
ソリューションを提供



基盤マテリアリティ



**社会と共生するガバナンスにより
基礎を固め、
揺るがない経営基盤を基点とし、
マーケットバリューの高い人財が
新たなソリューションを提供する。**

基盤マテリアリティ

永続的成長を成し遂げるため、経営理念を実践し、
今日より豊かな未来を創る、最も重要な基盤的要素

- **マーケットバリューの高い人財** ～「人」こそ「財（たから）」～
社会から必要とされ評価される人財
- **揺るがない経営基盤**
人財の力を最大限に引き出し、活動しやすくするための経営基盤
- **社会と共生するガバナンス**
社会からの期待・要請を踏まえ、社会と共生していくための企業統治の仕組み

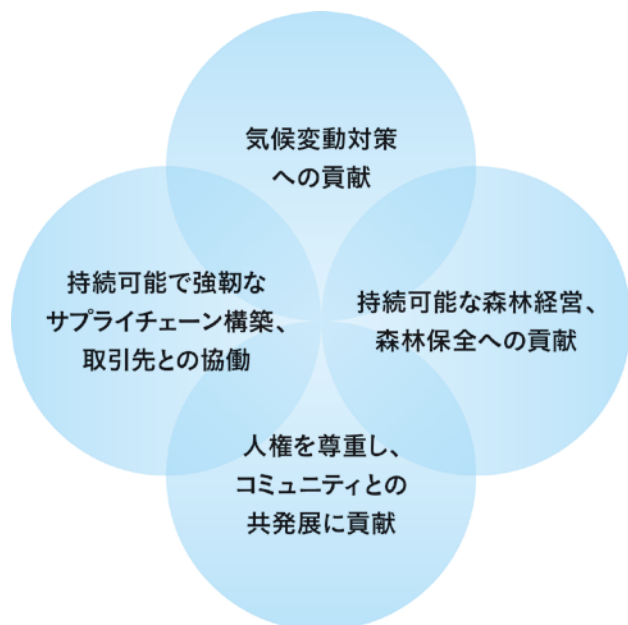
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



環境・社会課題の解決に
 貢献するためのマテリアリティを特定。
 丸紅の基盤マテリアリティを活用して
 環境・社会マテリアリティに
 取り組み、SDGsの達成に貢献する。

環境・社会マテリアリティ



環境・社会マテリアリティ

- 気候変動対策への貢献
- 持続可能な森林経営、森林保全への貢献
- 人権を尊重し、コミュニティとの共発展に貢献
- 持続可能で強靱なサプライチェーン構築、取引先との協働

地球と社会のサステナビリティの 脅威となる人類共通の課題「気候変動」 に対し、丸紅グループの事業活動を通 して解決に取り組む

- 脱石炭火力発電へのプロセス

2030年までに石炭火力発電容量を半減

- 新規石炭火力発電事業への取り組み

原則取り組まない

- 再生可能エネルギー発電事業への積極的な取り組み

2023年までに発電容量保有比率を倍増（目標）

- グリーン・ビジネスの拡大

2023年までにグリーンレベニューを約1兆3,000億円に拡大
（目標、現状：2017年度約7,000億円）

- TCFD提言への賛同

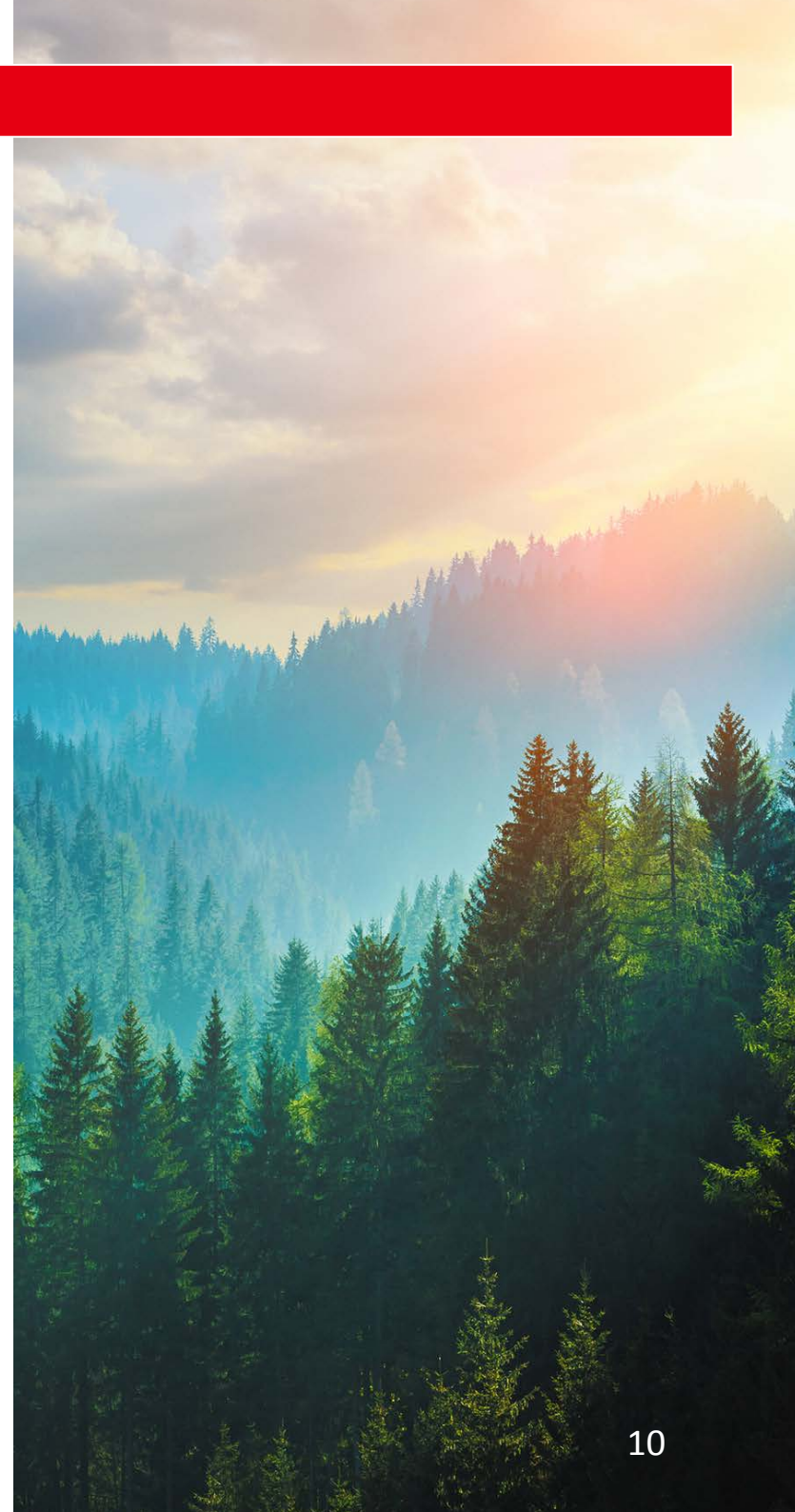
気候変動がもたらす「リスク」および「機会」の財務的インパクトの把握、情報開示の拡充



地球上の生命に様々な恩恵をもたらす、 「森林」「木質資源」の持続可能な 利用に向けて、丸紅ならではの 森林経営・保全に取り組む

● 「森林経営方針」「商品調達方針（森林由来製品）」 ー主なコミットメントー

- ・天然林からの転換を行わない
- ・違法伐採された木材から生産された調達物は取り扱わない
- ・認証材の取り扱いを促進
- ・生態系への影響を配慮（保護価値の高い森林の保全、絶滅危惧種の保護、使用農薬の限定、遺伝子組み換え技術の不使用など）
- ・人権の尊重（児童労働・強制労働・差別・ハラスメントを許容しない）
- ・地域社会および先住民族との共生
- ・積極的な情報開示



**国際社会が直面する
人権に対する課題に真摯に取り組み、
国際規範に則った「人権基本方針」を策定。
丸紅グループとして、
コミュニティとの共発展に貢献する**

● 「丸紅グループ人権基本方針」

- ・ 国際規範に則った人権の尊重
- ・ ステークホルダーとの対話と協議を真摯に行い、協働して人権侵害の撲滅に取り組む
- ・ 人権デューデリジェンスの実施
- ・ 苦情処理メカニズムを構築し、救済に取り組む
- ・ 国際規範と各国法令に矛盾がある場合には、国際規範に則った人権尊重のための方法を追求
- ・ 教育・研修の拡充
- ・ 積極的な情報開示



「丸紅なら安心」という信頼感を深め、 持続可能で強靱なサプライチェーンを構築。 丸紅グループならではの 新たな価値創造に取り組む

● 「丸紅グループ サプライチェーンにおけるサステナビリティ基本方針」

- ・ 取引先を含むサプライチェーンマネジメントに対する取り組みを強化
- ・ サステナビリティ・ガイドライン
 - 法令順守
 - 人権尊重
 - 環境保全
 - 公正取引
 - 安全衛生
 - 品質管理
 - 情報開示
- ・ ガイドラインを満たさない場合の対応手順を明確化

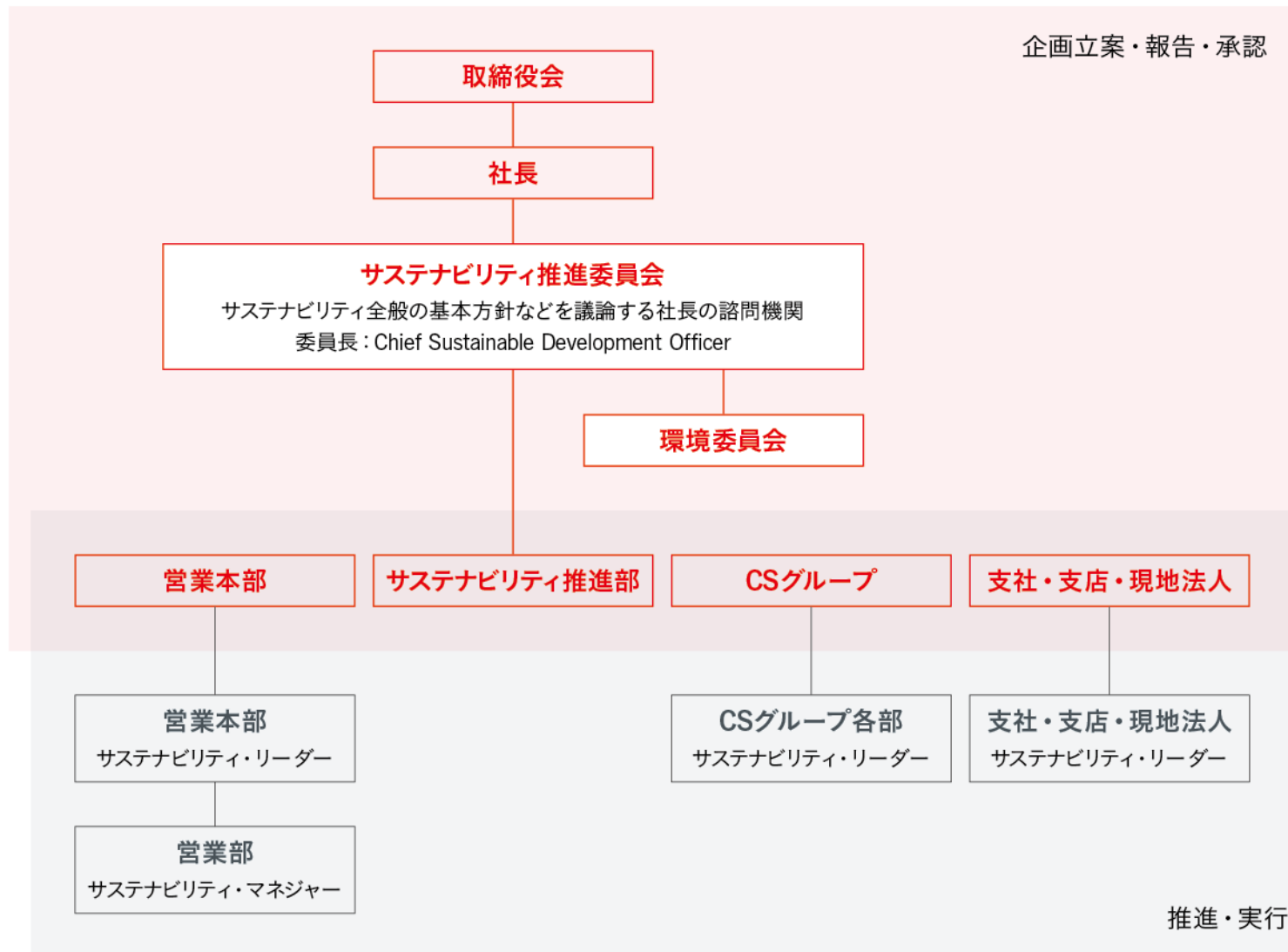


環境・社会課題を先取りし、
プロアクティブにソリューションを提供していくことは、
経営理念の実践であり、

今日より豊かな 未来を創る

ことこそが、丸紅グループにとってのサステナビリティです。
丸紅は、このサステナビリティを推進することで非財務価値の新たな創出と
その向上に取り組み、企業価値の持続的向上を目指します。

サステナビリティ推進体制



丸紅株式会社は、サステナビリティの基本的な考え方や取り組み方針、取り組み事例やパフォーマンスデータをまとめた『Sustainable Development Report』を2019年2月28日に公開しました。

従来、主に統合報告書やホームページで報告、公開してきたサステナビリティへの取り組みに関する情報を、わかりやすく一元化したものです。丸紅グループは、サステナビリティへの取り組みを日々進化させ、『Sustainable Development Report』の内容も更新ごとにアップグレードさせていきます。

なお、英語版は2019年3月末に公開予定です。



THANK YOU!

